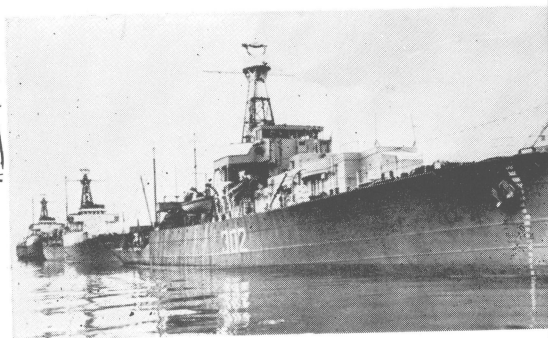
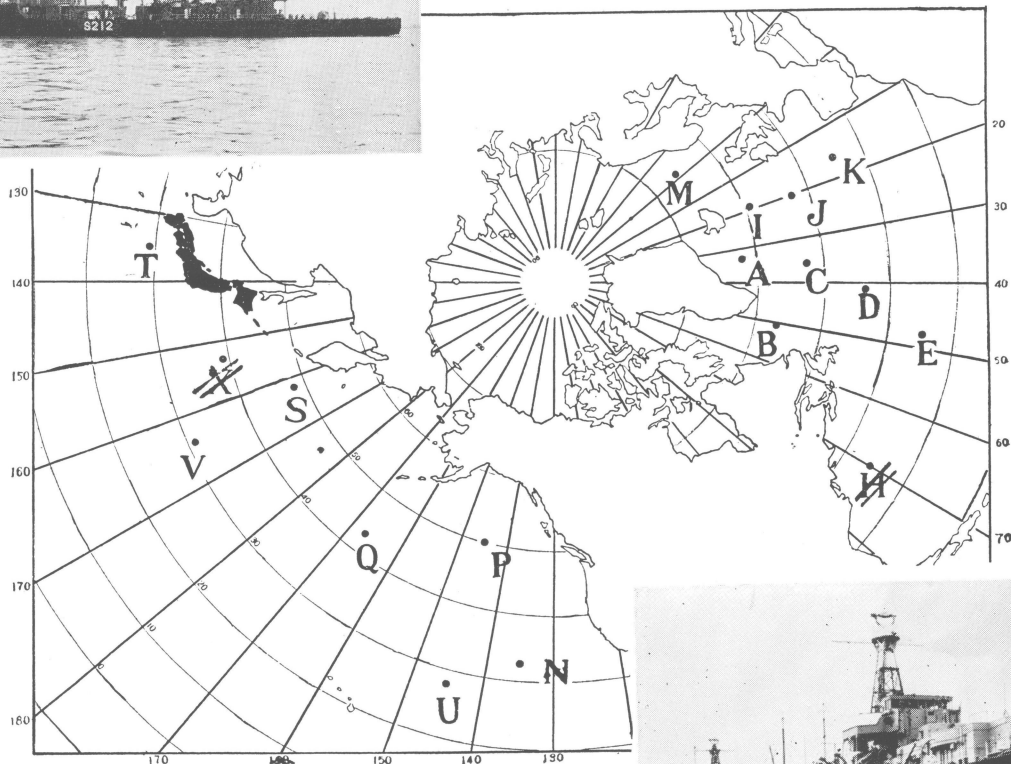
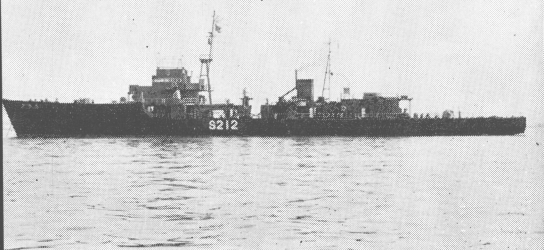


表紙 北方定点(北点またはX点)で約20日間暴風と激浪と闘い、
無事任務を終えて、鶴来丸と交代して帰路につく新南丸、
昭和24年12月26日9時



世界の定点観測業務

今から約30年前 フランス気象台長が、気象観測及び天気予報を行って、商船の運航や将来予想される大西洋横断飛行の開始に資するよう、大西洋に洋上測候所の設立を提唱した。

その後色々試みが行われたが、結局第2次世界大戦中昭和15年になって初めてアメリカが5隻の船を指定し、ベルムダ島とアゾレス群島との間で、飛行機の往復が最も頻繁な航空路に沿って2カ所の浮遊測候所を設立したが、これが定点観測の初まりで、現在の洋上測候所(Ocean Weather Station)を当時は浮遊測候所(Floating Weather Station)と呼んだ。

大戦中盛期には北大西洋、北太平洋ともそれぞれ定点(Ocean Station)の数は20カ所以上となった。

しかし終戦後は軍関係のためこれらは全部ひき上げられ、あらためて民間航空のため、この問題がとりあげられることになった。

北大西洋における定点観測業務

昭和21年、国際民間航空機関の第1回定点会議で13カ所の定点設置が決議せられ、本年2月パリで行われた第4回定点会議では9定点となり、今までと違った点は分担金の中に天気予報のため受益分20%はいったことである。

日本における定点観測業務

日本では当時の連合軍最高司令官の指令で、北点は昭和22年10月から、南点は昭和23年9月から開始し、凌風丸旧海防艦5隻(全部同じ型、写真参照)で担当した。

しかし昨年秋アメリカ側の分担金打ち切りで、11月1パイで一応休止し、本年からは台風時期6カ月間南点だけ実施することになった。

編集後記

今まで編集の編の字もしたことがない私が9月もおし迫ったところになって急に10月号の編集を担当することとなった。幸い、伊東編集長外各編集委員の応援によりまがりなりにも出来上り、御手許にあげられることができた。9月になって12号、14号、それから洞爺丸台風とつぎつぎと台風が本邦に来襲し、相次ぐ悲惨な災害をひき起している。このような異常現象を、そして災害を経験した現地の人々の体験をこの天気投稿して下さるようお願いしたい。貴重な体験を天気を通じて、災害防止に、そして気象学の発展のために(10.15.奥田穰)

編集委員：伊東穰自、神山恵三、日下部正雄、守田康太郎、村内必典、根本順吉、奥田穰、大井正一、矢野直、吉野正敏